

「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」は、市民の皆さまとの対話・議論による意見や想いを踏まえ、市民会館跡地を含む周辺エリアの活用における基本方針・コンセプトや導入機能について示すものとして策定しました。

< 市民の想い > P.15～

①アンケートの結果から(18歳以上5,000人及びWEBアンケート、回収652票)

・跡地の活用については、「ホール」や「音楽会」といった、元市民会館が備えていた機能に関わるものへの支持が高いほか、「イベント広場」など、にぎわいや交流につながる機能や、「公園」、「カフェ」、「緑」など、気軽に訪れ、憩える場としても期待されています。

②100人会議を通じた市民会館跡地に対する想い

・多様な意見がある中で、いずれの回においても「ホール」に関する意見が一定数ありました。
・ホール以外の意見についても、集約していくと、「憩い」、「交流」、「にぎわい」というキーワード(要素)に集約されていきます。

「ホール」に対する考察

・規模や機能についてのイメージは多様で多面的な検討が必要。
・共通する内容としては、「市民が使いやすいホール」

「憩い、交流、にぎわい」に対する考察

・「広場」のイメージが共通項として見出されたほか、デザイン性についても重要視。
・ソフトの重要性と市民や時間に任せるという考え。

③最終報告会ワークショップから跡地への想いを考察

・元市民会館大ホールに代表される“行事”や“発表”など、市民の皆さまにとっての『ハレの特別な日』と、元市民会館にはなかった、普段から気軽に立ち寄り、活動、交流できる『日常のいごちのよい場』の2つの視点が求められています。

市民会館100人会議
4つのキーワード(要素)

ホール

憩いの場

交流の場

にぎわいの場

最終報告会WS
2つの視点

ハレの特別な日

日常のいごちのよい場

< 社会情勢・政策課題の把握 > P.28～

社会情勢・政策課題からの機能検討

・「母子保健」と「子育て」について、誰もが訪れやすく利便性の高い場所で、連携したワンストップの拠点を設けることが必要とされています。本市においては、市民会館跡地を含む中心市街地は適地であると考えられます。
・元市民会館の閉館の影響もあり、市民の新たな発表の場が求められています。身近な場所で、文化芸術にふれることができる環境を整備する必要があります。
・その立地性から、中心市街地活性化における市民会館跡地の担う役割は大きく、広い視点でエリア全体を見据えた検討が必要です。

社会情勢
政策課題

子育て支援

中心市街地
活性化

P.34～



イベントもまた対話の中から

価値観やライフスタイルの多様化が進み、市民一人ひとりの“幸せ”や“豊かさ”の感じ方も多様化しており、行政が行う従来型のハード整備(ハコモノ)だけでは、価値観を満足させることは難しい状況にあります。

ではどうすれば良いか?



「憩い、交流、にぎわい」をキーとした100人会議の意見検証

・行政は「デザイン」やソフト面での「仕掛け」などを整備し、使い方については、「市民や時間に任せる」という考え。
・さまざまな人が集い、自分にあった過ごし方ができる「広場」というイメージの提示。

これらを踏まえ、市民会館跡地エリアの活用にあたっては、以下をキーコンセプトとして掲げることとします。

Key Concept 『育てる広場』

市民の皆さんの「ハレの特別な日」と「日常のいごちのよい場」を担うべく、「憩い」や、「にぎわい」、「交流」をキーワードに、素敵で使いたくなるような「デザイン」や「仕掛け」を組み込んだ機能(場)を提供します。

これはあくまで“場の提供”であり、その場所をどう使い、どう活動し、そしてどう変えていくかは、市民自身で考え、市民自身の手により、「育てる広場」として作り上げられていきます。

歌う、踊る、散歩する、眺める、待ち合わせ、勉強、お茶…市民の皆さんのいろいろな「やりたい」や「すごし方」を、生み出し育てる「場」をめざします。

< 導入機能とその方向性 > P.38～

① ホール機能「市民の“ハレの場”」

市民の利用を中心としたホールとして、市民が使いやすい規模、形態、設備を備え、発表会や講演、行事、イベント等、多目的に利用できる、市民にとって特別な「ハレの日」にふさわしい場所とします。

② 憩い「サードプレイス」

芝生が広がる公園など、中心市街地でありながら、緑に囲まれゆったりした空間の広がる「憩い」の場とします。例えば、テラスのあるカフェが併設された図書スペースでは、天気の良い日はそのまま外の芝生で読書ができるような使い方ができるなど、誰もが心地よく憩うことのできるサードプレイスをめざします。

③ にぎわい・交流・中心市街地活性化「普段使いできる交流とにぎわいの空間」

オープンスペースではいつも誰かが何かをしている、それを眺めている人がいて、その活動がきっかけで何かが始まる、というような、日常的にさまざまな人が交流する「にぎわい」の空間とします。

④ 子育て支援「いばらき版ネウボラ」

子育てに関する切れ目のない支援を実現する拠点施設を設置します。安心して相談でき、「困る前につながる」環境を整えることで、リスクの早期発見・支援を可能にします。
遊びに來たついでに相談できたり、子どもが集まることで、その子どもを中心に、情報交換や交流ができるような場所にします。



写真:元市民会館

次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

